

平成22年度 学校中間評価報告・今後の取組（改善策）

H22.10.20(水)

学校中間評価を、教職員による各部会での話し合いで行い、その後、去る10月6日に学校関係者評価委員会を学校関係者評価委員（本校では学校評議員）と全職員参加で実施し、気づき・意見を出し合って文章で表す方法で行いました。学校評価委員の皆様からは、分かる範囲でA～Dの評価も記入していただきました。当日のご発言と文書でご記入していただいたものをまとめたものです。

以下ご報告します。

具体的方策は別紙で確認してください。

区分	領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	中間評価 ・今後の取組（改善策）	学校関係者からの気づき・意見等
管理 部	学校 運営	学校経営方針	学校経営ビジョン（目ざす子ども像）の周知	学校教育活動に目ざす子ども像を意識して臨む児童を90%以上にする。	「目ざす子ども像」については、学校教育目標とともに明示し、各教室や校内に掲示をしている。 学級では具現化を図る指導を学級経営案を作成して実践を進めている。全校児童に下学年と上学年の目ざす子ども像を1学期、2学期に各1回知らせ意識付けを行った。 今度さらに児童の意識の中に入りやすくするための工夫が必要である。 ・「すすんで学び 思いやりの心をもちたくましく 共にはたらく 大町っ子 やれる子 できる子 がんばる子」 （検討中） 大きな文字で掲示する。 意見 もっとシンプルにしたほうがいい。	先生方の中から出ていましたように、テーマはできるだけ簡潔に、覚えやすくした方がよいと思う。事あるごとに口に出すことで周知できるようになると思う。 教職員の具体的な取り組みについての話し合いがあった。(A) 朝会や集会などで、実例をあげて児童に分かりやすく話すようにする。 目ざす子ども像については、各階ごとに上、下学年ごとにわかりやすく、簡潔に表示したりして、周知徹底していく。(B) 校舎3階の窓・外壁等に大きく掲示してみてもいい?(児童・来訪者に目につくように) (B)
		安全管理・危機管理	児童の交通安全能力・危回避能力の向上	防犯ブザーの所持率、自転車のヘルメット着用率、子ども110番の家の周知率を85%以上にする。	防犯ブザーの所持率75%、ヘルメットの着用率は65%、子ども110番の家の周知率45%で、どれも目標を大きく下回っている。 安全指導の強化と共に、学校便りや学級懇談会等での保護者の啓発をしていく必要がある。 意見 防犯ブザーがこわれた場合は、ふえでもいいと言っている。 意見 子ども110番の家は水難避難訓練の時に確認した。 ・再度知らせる機会を作る。地区毎の子ども110番の家一覧表の作成。地区でも確認してもらおう(夏休みに地区委員で実施してもらっている)	「110番の家」の方と子どもたちが一度くらいは顔をあわせておくと、入りやすいのではないかと。 教職員の意見発表の通り、子ども110番の家とのつながりが身近になることが児童の安心な生活づくりとなる。(B) 歩道がある所では、右側通行を守っているが、通学道路では、自由に広がって通行しているのではないかと。(立番での指導を) 防犯ブザー所持、ヘルメット着用を呼びかける。(B) 警察、消防署等の機関誌等を引用し、絵入りチラシを配布してはどうか。(B)
生徒 指導 ・ 教育 相談 部	教 育 活	心の教育	いじめや差別のない風土づくり	人権を意識させ、差別しない、差別を許さない、児童を育てる。 平和の大切さ、命の大切さを理解するように促す。 職員の人権・同和意識を深	人権に関するテーマでの「大町っ子こころの詩」を選定し、音読させたり、内容について考えさせたりすることができている。 平和教育月間を設定し、平和の大切さについて考えさせた。 人権・同和教育研修会を開き、職員	重松 清「青い鳥」新潮文庫 は、おすすめの本。(一読の価値あり) 日々の人と人とのかかわり(出来事、かかわり、相談、トラブル、対話・・・)が、児童の自分づくりと地域づくりにつながりますように意識したい。大人の意識づくり

動 教 育 活 動			める。	の人権意識向上を図った。	から生まれる。(B) 地域での仲間意識(上下のつながり)が 少ないように思われる。地域での行事があ まりないことも原因かも。 グループ活動を多くしていく。(B) 友だちと仲良く遊ぶことは大切である。 (B)
	道徳教育の推進と道徳の 授業の充実	全学級、道徳の時間を保 護者に公開する。地域への 道徳授業の公開も行う。 各学年の年間指導計画を立てる。	各学級で道徳の授業を参観日で実施すること を提案している。(年に1回)これまでにいく つかの学級で実施している。年間指導計画に従 い、児童の実態に合わせて指導している。	授業参観が必要な時代と思った。(B) 授業参観での道徳を実施することも理解 を深めるためによい。(B) (B)	
	人権・同和教育の視点に 立った学級づくり	互いのよさを認め合い、助 け合う児童を育てる。 身近な問題に気づき、連携 して問題を解決していこう とする児童を育てる。	「Let's try 仲間づくり」の資料で、具体的場 面を設定してクリアする仲間づくりのゲーム、 エンカウンター等のスキルを取り入れた学級活 動に取り組んでいる。	低・中・高学年での仲間づくりのための 集会やグループでの遊びなどを考えていく。 (A) (B)	
	特別支援教育	特別支援教育の充実	特別支援が必要な児童を全 職員が把握する。	学年当初に支援の必要な児童の名前を紹介す る。早目に中学校と同じ様式の個別支援計画を 作成するよう勧めた。支援シートを生かして、 個々の児童に合った支援をしていきたい。本年 度設置の通級教室も保護者の関心が高まっている。	本年度設置の通級教室が保護者の意識が 高まっている状況は望ましいと思う。(A) 支援が必要な子どもについての共通理 解(教師・子ども)を深める。 支援学級の設立などいい事だと思う。(A) (B)
	生徒指導	生徒理解の推進と居場所 づくり	児童理解において早期の問 題発見、対応に努める。	生徒指導・教育相談連絡会を開催し各学級の 気になる児童を出し合い全職員の共通理解の もと支援している。毎月「今月のこころ」アン ケートを実施し、「楽しくない、友だちがいない」 と答えた児童に対して、各学級の指導・支援に 生かしている。	学校が楽しい、友だちが多くいて楽しい と言える子どもを育てていくよう努力する。 (B) 「思いやり」をもって接していきたい。(B) (B)
		「生活ルール」の周知徹 底	生活ルールアンケートを実 施し、達成率を90パーセ ント以上にする。	学年当初に「学習ルール・生活ルール」のポ スターを各家庭に配布した。あいさつの向上や 基本的な生活習慣の確立が見られるようになって いる。 9月に「生活ルールにチェック週間」を設け て、実態をつかみ指導している。	学習ルール・生活ルール、よく指導され ていると思う。 9月の生活チェック週間が児童と家庭の 次の課題になっている。(A) 廊下、階段等に掲示されていて、よい効 果が期待できる。(A) (B)
	学 習 指	学力の向上	大町型授業実践による分 かる授業と基礎基本の徹 底	大町型授業の全校授業研を2回実施すること ができた。 宿題は、内容も工夫しながら、毎日出してい る。	学校全体の課題の共有化を図る。 全ての子どもに分かる授業を徹底し基礎 的な学力の充実を図っていく。(B) 学習意欲がわくような指導があればいい。

導 部				<p>国・算学力検査の結果は、昨年度より向上していなかった。そのため、今年度前半の取組を見直し、今年度後半は、朝の活動（国語タイム・ドリルタイム）を充実・徹底させている。</p>	(B)	
	学習ルールの周知徹底	学習ルールのアンケートを実施し、達成率を90%以上にする。	<p>家庭での協力を得るために、学習ルールのポスターを全家庭に配布した。</p> <p>9月14日（火）に、学習ルールのアンケートを実施した。アンケートの項目を昨年度同様のものにしたので、比較検討も含めて、分析中である。</p>	<p>学校全体の課題の共有化を図る。</p> <p>各家庭へのポスター配布、事後のアンケートの実施などで、効果があがると思う。</p>	(A) (B)	
保 健 体 育 部	健康・体力づくり	体づくりの推進	外遊びの好きな児童を70パーセント以上にする。	<p>低・中学年は100%近くの児童が外に出て遊んでいる。高学年の男子はよく外で遊んでいるが、女子の中には、なかなか外で遊びたがらない児童がいる。</p> <p>・なわとび大会を縦割り班で実施してみてもどうか。学級に長縄の配布を予定している。</p>	<p>休日の家族との過ごし方が今後も課題のひとつと思う。</p> <p>(A)</p> <p>まず、外に出て元気よく遊ぶことが、大事で今からは、なわとび（個人）長なわとび（団体）持久走などで体力づくりをしていく。</p>	(B) (B)
		保健・安全指導の充実	自分の心や体の健康に関心を持ち、大切にしている児童を90パーセント以上にする。	<p>内科や眼科検診の結果は、保健室から各家庭に連絡をしている。その結果を保護者はどう受け止めているのだろうか。病院に行き、完治したという連絡は<u>80%</u>である。</p>	<p>検診の結果をみて病院に行き完治が80%というのはすごい。でも、90%以上を目指しての取り組みがんばってほしい。</p> <p>定期健診のよさの意識づくりへ</p>	(A) (B)
		食育の指導	準備、食べ方、後始末など給食時の指導を徹底する。栄養教諭と担任の連携により食育についての指導を年間を通して計画的に行う。	<p>準備や待ち方・マスク着用など、委員会の児童に調査をさせ、意識を高めたい。後始末は良くなってきたが、御飯の時の後始末は要注意。</p> <p>・全学級に栄養教諭の指導を実施していく。</p> <p>・はしの持ち方の指導も行っていく。</p>	<p>学校給食での準備、マナー、後始末はよくできていると思うが、朝食をとらないで登校する子どもは少なくなったのだろうか？</p> <p>幼児期でも箸の持ち方について保護者に学期末相談が必要となっている。食事は楽しくなごやかな雰囲気食べさせたい。</p>	(A) (B)
特	小中一貫教育に向けた	キャリア教育を中核とし	各教科、領域を通して4	<p>夏季休業中に小中合同の研修作業で、カリキュラム作成完了。</p> <p>・来年度からの、全面的実施に向けて、修正中。</p>	<p>キャリア教育という言葉からどんな事？と思ったが、日常の学習活動で、人の話をきちんと聞き、それに対して自分の考えを</p>	

別 活 動 部	取組の推進	た教育活動の推進	能力、8スキルを育成する。		持ち発言できる子どもにすることは、とても大切なことだと思う。 児童の自己課題の必要性 教科、領域を通して4能力、8スキルを育成していくカリキュラムが作成されて来年度から実施ということで大いに期待している。(B) 今後さらに密な連携をもって対処していきたい。(B)
		児童生徒の交流の推進	小中間で児童生徒を交流する機会を設けて、親睦の強化と教育活動の一層の充実を図る。	小学校の運動会では、6年生と中学生徒との合同競技の実施。 一貫校開設後の合同実施の試みとして、昨年同様、綱引きを実施。文化祭では、小学校児童の作品を展示し交流の予定。	小中間の児童生徒の交流で、教育活動が充実していく場がふえるといい。 小中間の児童生徒の交流行事などが、増えて楽しみにしている。(A) (B)
		家庭・地域との連携の推進	9年間を見通した、学力の向上と心の教育の取組を学校だよりやホームページで学期に1回以上は知らせる。	学校だより5(4月~7月) ホームページ週1回の定期的更新、主要な学校行事の更新を図っている。	学校だよりが回覧板でまわってくると子どもがいない家庭でも読んでいる方がふえたように思う。 便りはひとつの楽しみに。生活づくりと課題の様子が分かりあえる。(A) 学校での行事や子ども達の様子を回覧で知らせて理解協力してもらうことは、大変いいことだと思う。やや、文字、写真等が小さいようで、ひと工夫してほしい。(A) (B)
低学年部・学習指導部	小学校低学年の学習指導の改善充実	基本的な生活習慣の育成	「時間を守る」「学習の準備をする」「話を最後まで聞く」の達成率を90%にする。	生活・学習ルールチェックを全校1週間行い、よりよい生活習慣をめざしていくように意識づけることができた。 日々様子を観察し、指導を行っている。 ・「話を最後まで聞く」については、話し手を見て聞くよう指導していく必要がある。	生活・学習ルールチェックで、家庭にもよく意識づけができていると思う。 日々の生活の様子の観察と指導が実施されている。(その小さな取り組みのよさが生かされる。)(A) 基本的な生活習慣のルール「時間」「学習準備」「話を聞く」は家庭への配布等で保護者、子どもの意識づけがよくできていると思う。(B) よくできていると思う。(A)

学校関係者委員からのその他

- ・ 今年度初めて、中間評価を行い全職員参加で各部からの報告、共通理解の場に学校評議員の方に参加してもらいましたが、参加させてもらってよかったです。先生方の細かい取り組みや熱意にとっても感心しました。
- ・ 先生方が子どもたちに意識をもたせるためにいろいろ協議をされていることに頭が下がりました。

等の感想をいただきました。

ご意見を参考にして、今後の取組に生かしていきたいと思えます。今後共、ご協力ご支援よろしくお願ひします。

